

中間とりまとめ案に対する御意見（検討会議委員・関係機関）への主な対応

参考資料1-2

No.	該当部分	御意見の概要	対応
1	第1章 目指すあいちの教育 1 基本理念（説明文） 子供たちが、グローバル社会や、高度情報化社会など、社会の変化の激しさにも自分を見失わず、夢や希望をもちながら前向きに社会に関わり、自らの人生を切りひらいていく資質・能力を身に付け、これからのあいちや日本、世界を担っていく気概と意欲をもって活動することができるよう、自らのよりどころとなるふるさとを大切に育んで、アイデンティティの確立を図るとともに、視野を世界に広げて、自ら学び、物事を多面的に捉える見方や考え方を習得させ、よりよく課題を解決できる力を育みます。	文が少々長く読みづらいのでどこかで切るとよいと思うのですが……。4行目の意欲をもって活動できるよう……。のところで切ってみてはいかがでしょうか。	文章を精査のうえ修正。
2	第2章 取組の柱と施策の展開 1 自ら学びに向かう教育を充実させ、自己の可能性を伸ばす力を育みます (1) 主体的・対話的で深い学びの推進ときめ細かな指導の充実	2つ目の○「言語活動の充実、コンピュータ等や教材・教具の活用、見通しを立てたり、振り返ったりする学習活動」について、コンピュータ等や教材・教具は学習ツールの一つであり、主体的・対話的で深い学びの推進に直結するものではないと考える。資質・能力を育成するために多様な学習活動の上位としてあげることには違和感がある。順位性を下げてはどうか。	下記のとおり記載の順位を変更。 ○ 言語活動の充実、見通しを立てたり、振り返ったりする学習活動、体験活動、課題選択及び自主的、自発的な学習の促進、 コンピュータ等や教材・教具の活用 など、児童生徒の実際の状況を踏まえながら、資質・能力を育成するために多様な学習活動を組み合わせた授業改善を推進します。
3	第2章 取組の柱と施策の展開 1 自ら学びに向かう教育を充実させ、自己の可能性を伸ばす力を育みます (1) 主体的・対話的で深い学びの推進ときめ細かな指導の充実	4つ目の○「GIGAスクールサポーターの配置」について、GIGAスクールサポーターと個別最適な学びはつながらないのではないかと。	GIGAスクールサポーターによるICT環境の充実は、個別最適な学びに結びつくと考えています。意見に沿って下記のとおり修正。 ○ モデル校でのICTを活用した学びの構築についての研究を実施し、教員研修、小学校高学年における教科担任制、 民間のICT技術者による学校への支援体制の強化を検討していきます。
4	第2章 取組の柱と施策の展開 1 自ら学びに向かう教育を充実させ、自己の可能性を伸ばす力を育みます (2) 情報活用能力の育成とICT活用教育の推進	○ 定時制・通信制課程及び不登校経験等のある様々な事情のある生徒が多く入学する全日制高校への更なる支援の必要性に関する加筆・「通信制課程における学習へのICTの活用」の加筆（ICTによるレポート提出への転換の必要性）	以下の記述を追記。 ○ 県立高等学校通信制課程において、ICTを活用したレポートの提出等、きめ細かな指導体制の充実を図るための方策を検討します。
5	第2章 取組の柱と施策の展開 1 自ら学びに向かう教育を充実させ、自己の可能性を伸ばす力を育みます (2) 情報活用能力の育成とICT活用教育の推進 6 子供の意欲を高め、教師の働きがいがある魅力的な教育環境づくりを進めます (27) 教員の人材確保と資質向上の推進	○ ICT教育に関する人的支援の記述の加筆 ・ ICT支援員の配置のみならず、情報免許所持者の採用拡大の必要性に関する加筆（ICT機器及び校内ネットワーク管理を担当業務（担当授業時間を含める形）とした教科「情報」担当者の採用及び配置計画の策定）	以下の記述を追記。 ○ 県立学校において、専任の情報科教員や生徒のICT活用能力を育成するための支援員の配置等、ICT教育の推進体制の強化について検討します。
6	第2章 取組の柱と施策の展開 1 自ら学びに向かう教育を充実させ、自己の可能性を伸ばす力を育みます (4) 多様な学びを保障する学校・仕組みづくり	○ 普通科の活性化に対する提案 ・ 時代のニーズを踏まえた新たな普通科コースの設置に関する加筆	以下の記述を追記。 ○ 時代の変化や生徒のニーズを踏まえた新たな普通科コースの設置を検討します。
7	第2章 取組の柱と施策の展開 1 自ら学びに向かう教育を充実させ、自己の可能性を伸ばす力を育みます (4) 多様な学びを保障する学校・仕組みづくり	・ 「国の普通科改革の動向を踏まえて」3種の新学科についての研究を進めるとある。普通科を解体し、新たな「エリート学科」や「エリート校」をつくる方向は公教育を歪めるものであり反対する。 ・ 普通科の活性化に対する提案・普通科の特色化に関する記載の改訂（「その他特色・魅力ある教育を実現すると認められる学科」以下の記述を改訂 →例えば「等、新たな普通教育を主とする学科の在り方について検討します。」あるいは、「普通科の学科の再編成や教育課程編成について先進的な取組を行っていきます。」など）	下記のとおり修正。 ○ 国の普通科 高等学校 改革の動向を踏まえて、「学際科学的な学びに重点的に取り組む学科」「地域社会が抱える課題の解決に向けた学びに重点的に取り組む学科」「その他特色・魅力ある教育を実現すると認められる学科」 等、新たな普通教育を主とする学科の在り方について検討します。

No.	該当部分	御意見の概要	対応
8	第2章 取組の柱と施策の展開 1 自ら学びに向かう教育を充実させ、自己の可能性を伸ばす力を育みます (4) 多様な学びを保障する学校・仕組みづくり 2 人としての在り方・生き方を考える教育を充実させ、実践力を伴った道徳性・社会性を育みます (13) 不登校児童生徒への対応の充実 〔追記〕	○ 定時制・通信制課程及び不登校経験等のある様々な事情のある生徒が多く入学する全日制高校への更なる支援の必要性に関する加筆・学び直しを必要とする生徒への支援を行うための教員定数の増員に関する加筆	以下の記述を追記。 ○ <u>高等学校において、学び直しを必要とする生徒への支援を行うための教員の適正な配置に努めるなど、支援体制の充実を図ります。</u>
9	第2章 取組の柱と施策の展開 1 自ら学びに向かう教育を充実させ、自己の可能性を伸ばす力を育みます (4) 多様な学びを保障する学校・仕組みづくり	○ 教職員定数の改善、教員志願者の増加を狙う観点からの加筆・コロナ対応以外の部分における少人数指導に関する人的支援の記述を加筆	以下の記述を追記。 ○ <u>学校の特色に応じた少人数指導を推進します。</u>
10	第2章 取組の柱と施策の展開 1 自ら学びに向かう教育を充実させ、自己の可能性を伸ばす力を育みます (5) 理数教育の推進	○ 「愛知ビジョン2030」とのシンクロを意識した見直しの観点・理数科に関する記述の加筆、「理数教育」を「STEAM教育」とする、など（例えば、理数科や理数コースの設置の明示。また、理数科、理数コースのみならず、理工科、IT工学科、ロボット工学科などを含めたまとめ方。理数科、理数科の説明の加筆。理科教育設備だけでなく、理科や産業教育に係る実験実習費の充実を加筆。）	下記のとおり修正。 ○ こうした現状等を踏まえ、興味・関心を起点として主体的に課題を解決していく学習や探究型学習を進めるとともに、STEAM教育やスーパーサイエンスハイスクールなどの取組、大学や企業と連携した取組、 <u>理数科・理数コースの設置</u> を進め、理数教育をさらに充実させていきます。
11	第2章 取組の柱と施策の展開 1 自ら学びに向かう教育を充実させ、自己の可能性を伸ばす力を育みます (6) 特別支援教育の充実	○ 特別支援教育に関する加筆 ・ 個別の教育支援計画及び個別の指導計画の引継ぎ（高等学校への引き継ぎ、連携の強化についての記述の加筆）	下記のとおり修正。 ○ 個別の教育支援計画及び個別の指導計画の適切な活用を進めるとともに、幼児児童生徒の支援情報について、進学先や進路先へ確実に引き継ぐことができるよう、 <u>幼稚園・認定こども園・保育所、小中学校、高等学校</u> と関係機関との連携を強化します。
12	第2章 取組の柱と施策の展開 1 自ら学びに向かう教育を充実させ、自己の可能性を伸ばす力を育みます (7) 幼児教育の充実 その他 全般にわたって	今回の中間とりまとめ案においては「幼児教育」の位置付けについて、子ども・子育て支援新制度等も踏まえて、第三次計画に比べて、より分かりやすく整理されており、良い計画であると評価いたします。その上で、幼児教育施設の表記として「幼稚園・保育所等」に統一されていますが、ここに「認定こども園」を追加したほうが良いと思います。（例「幼稚園・認定こども園・保育所等」）これが長すぎるとの判断であれば、むしろ「幼稚園・認定こども園等」の方が適切であると思います。	幼児教育施設の表記を、「 <u>幼稚園・認定こども園・保育所</u> 」に修正。
13	第2章 取組の柱と施策の展開 1 自ら学びに向かう教育を充実させ、自己の可能性を伸ばす力を育みます (9) 大学等高等教育の振興	「高等教育機関は、人材を育成し、…企業等の関係機関と連携・協働しながら、…」とあるが、大学の役割は第一義的には真理の探究である。人材育成や企業連携を前面に出すのは適当ではないと考える。	下記のとおり修正。 ○ 高等教育機関は、 <u>学術の中心としての役割に加え</u> 、人材を育成し、地域の行政や産業を支える基盤として、地域、企業等の関係機関と連携・協働しながら、社会の多様な課題に対応していくことが重要です。
14	第2章 取組の柱と施策の展開 3 健やかな体と心を育む教育を充実させ、生涯にわたって、たくましく生きる力を育みます (17) 学校体育・生涯スポーツの充実	○ の3つ目、総合型地域スポーツクラブに関連する文言で、「少なくとも1つは設置できるよう」とあるが、「少なくとも」とすると1つ設置すればよいととらえられかねないため、「少なくとも」を削除し、「1つ以上」としてはどうか。	下記のとおり修正。 ○ 総合型地域スポーツクラブが未配置の市町村に、広域スポーツセンターやクラブアドバイザーの派遣を通して、 <u>1つ以上</u> は設置できるよう引き続き支援するとともに、活動の質的な充実により、継続的に運営できるクラブの育成を支援します。
15	第2章 取組の柱と施策の展開 3 健やかな体と心を育む教育を充実させ、生涯にわたって、たくましく生きる力を育みます (17) 学校体育・生涯スポーツの充実	1つ目の○「教員の働き方」も大切ではあるが、子どもたちにとって望ましい部活動のあり方について検討すべきではないか。「新しい部活動」を「子どもたちにとって望ましい部活動のあり方」としてはどうか。	下記のとおり修正。 ○ <u>学校における働き方改革にも留意しつつ、望ましい部活動の在り方について検討を進めます。</u>
16	第2章 取組の柱と施策の展開 3 健やかな体と心を育む教育を充実させ、生涯にわたって、たくましく生きる力を育みます (18) 健康教育・食育の推進	3つ目の○「自殺の危険の高い子供に対して教職員がチームで対応する体制を整えます。」とあるが、自殺の危険がある子どもに対して教職員だけで対応してよいのか。スクールカウンセラーなどや外部医療機関との連携が必要ではないか。	下記のとおり修正。 ○ 児童生徒の自殺予防に向けて、自殺予防啓発リーフレットなどを活用し、自殺を防ぐための知識の普及や相談窓口の周知を図るとともに、SOSの出し方に関する教育を推進します。また、自殺の危険の高い子供に対して教職員が <u>専門スタッフや関係機関と連携し、チーム</u> で対応する体制を整えます。

No.	該当部分	御意見の概要	対応
17	第2章 取組の柱と施策の展開 3 健やかな体と心を育む教育を充実させ、生涯にわたって、たくましく生きる力を育みます (18) 健康教育・食育の推進	5つ目の○「食物アレルギーに関する保護者への啓発に取り組みます」とは、具体的にどのようなことに取り組みられるのか、具体がなくわかりづらい。食物アレルギーの事故はあってはならないことだが、「啓発」でよいのか。	下記のとおり修正。 ○ 学校における食物アレルギー事故防止の徹底を図るため、「学校における食物アレルギー対応の手引」（県作成）をもとに、市町村や学校関係者を支援するとともに、 <u>食物アレルギーの有無に関係なく、全ての児童生徒の健全な成長及び安全・安心な学校生活を送ることができるよう、保護者向けに作成したリーフレットを活用し、食物アレルギーに関する保護者への啓発に取り組みます。</u>
18	第2章 取組の柱と施策の展開 4 ふるさとの魅力や愛知の伝統・文化に学びつつ、技術の進歩に取り組み、社会の発展を支える人を育みます (19) ふるさと教育の推進と新たな文化の創造	「自分のふるさとを誇りに思い、ふるさとの伝統文化への理解を深め、尊重する態度を育むことは教育の普遍的な価値のひとつであり、グローバル社会において、その重要性はますます大きくなっています」とある。愛国心と同様、郷土愛も児童・生徒が地域で自ら学び・人々と関わり活動する中で自然と醸成されるものであり、学校教育において「ふるさと教育」として一斉に推進するものではないと考える。	下記のとおり修正。 ○ 自分のふるさとを誇りに思い、ふるさとの伝統・文化への理解を深め、尊重する態度を育むことは教育の普遍的な価値のひとつであり、グローバル社会において、その重要性はますます大きくなっています。そのため、子供たちがふるさとの人々や文化、自然、社会、産業等と触れ合う機会を充実させ、ふるさとの魅力を発見し、ふるさとへの愛着心を醸成するとともに、 <u>ふるさとの未来を展望し、よりよくしようとする気持ちを喚起することが重要です。</u>
19	第2章 取組の柱と施策の展開 4 ふるさとの魅力や愛知の伝統・文化に学びつつ、技術の進歩に取り組み、社会の発展を支える人を育みます (20) 社会の担い手の育成に向けたキャリア教育の推進	「発達段階に応じた」を「発達段階における成長課題に応じた」とされたほうが、現場でのより具体的な展開につながりやすいと考え、意見を申し上げます。 キャリア論の視点からもより正確な表現になさることをお奨めします。何よりも、「発達段階に応じた」という表現を選ばれたのは、おそらく、第3次の4（18）の②学校でのキャリア教育の充実を引き継ぎ、幅を広げたものと拝察します。とすれば、現場で展開の具体策を考える際の指針としては、ゴールをより明確にされたほうがよろしいと思っておりますの意見です。	下記のとおり修正。 ① 発達段階の成長課題に応じたキャリア教育の充実
20	第2章 取組の柱と施策の展開 4 ふるさとの魅力や愛知の伝統・文化に学びつつ、技術の進歩に取り組み、社会の発展を支える人を育みます (20) 社会の担い手の育成に向けたキャリア教育の推進	○ キャリア教育に関する加筆 ・「キャリアパスポート」の学校段階間の受け渡しに関する記述の加筆（高校における「キャリア教育ノート」の活用、等）	以下の記述を追記。 ○ <u>高等学校では、キャリア・パスポートを引き継ぐなど、小中学校での取組を踏まえて、キャリア教育を推進します。</u>
21	第2章 取組の柱と施策の展開 4 ふるさとの魅力や愛知の伝統・文化に学びつつ、技術の進歩に取り組み、社会の発展を支える人を育みます (20) 社会の担い手の育成に向けたキャリア教育の推進	○ キャリア教育に関する加筆 ・キャリア教育コーディネーターの充実に関する加筆	下記のとおり修正。 ○ キャリア教育コーディネーター等を活用し、インターンシップ等に参加する生徒の増加を図ります。 <u>さらに、普通科を中心に、アカデミック・インターンシップ等の取組を進めます。また、これらの取組の充実のため、「キャリア教育コーディネーター」の配置拡充を目指します。</u>
22	第2章 取組の柱と施策の展開 4 ふるさとの魅力や愛知の伝統・文化に学びつつ、技術の進歩に取り組み、社会の発展を支える人を育みます (20) 社会の担い手の育成に向けたキャリア教育の推進	○ キャリア教育に関する加筆 ・普通科「企業連携コース」と工業科「生活コース」に関する記述の加筆	以下の記述を追記。 ○ <u>全日制普通科高等学校において「企業連携コース」を新設し、あいちの産業についての学習やインターンシップ、数ヶ月間にわたる週1日程度の企業実習を実施するなど、望ましい勤労観・職業観の醸成を図ります。</u> ○ <u>工科高等学校に「生活コース」を設置し、3年間を通して男女共同参画やワークライフバランス等について学ぶことができる教育課程を編成します。</u>
23	第2章 取組の柱と施策の展開 5 世界とつながり、生き生きと活躍するために必要な力を育みます (24) 日本語指導が必要な児童生徒への支援の充実	○ 定時制・通信制課程及び不登校経験等のある様々な事情のある生徒が多く入学する全日制高校への更なる支援の必要性に関する加筆 ・外国人児童生徒の保護者向け相談窓口の設置に関する加筆	以下の記述を追記。 ○ <u>県立学校において、それぞれの母語で相談できる窓口の設置等、保護者を支援するための取組について検討します。</u>
24	第2章 取組の柱と施策の展開 6 子供の意欲を高め、教師の働きがいがある魅力的な教育環境づくりを進めます (25) 学校における働き方改革	○ 「県立学校への支援」と「私立高校への支援」とのバランスという観点からの見直し ・「部活動指導ガイドライン」の遵守の徹底、部活動の在り方の改善（対象は公私ともにすべき。私学への働きかけに対する記述の必要性）	下記のとおり修正。 ○ 部活動本来の目的である児童生徒の健全育成の観点から、「部活動指導ガイドライン」の遵守を徹底します。 <u>私立学校に対しても国の部活動改革を踏まえた取組を呼びかけます。</u>

No.	該当部分	御意見の概要	対応
25	第2章 取組の柱と施策の展開 6子供の意欲を高め、教師の働きがいがある魅力的な教育環境づくりを進めます (25) 学校における働き方改革	○ 働き方改革に関する記述の加筆 ・部活動総合指導員、部活動専門指導員の増員の加筆（外部委託化が本格化するまでの暫定的な施策として必要）	下記のとおり修正。 ○ <u>部活動指導員の配置拡充に努めるとともに、</u> 学校部活動の段階的な地域移行に向けて、国の動向も踏まえ、「学校と地域が協働・融合」した部活動の具体的な実現方策の検討を進め、持続可能な活動のための環境整備を行います。
26	第2章 取組の柱と施策の展開 6子供の意欲を高め、教師の働きがいがある魅力的な教育環境づくりを進めます (26) 開かれた学校づくりと学校への支援	2つ目の○、「部活動の地域移行の動きを踏まえつつ、部活動指導員の配置の拡充を図ります」について、国が示す休日の部活動の運営主体は総合型地域スポーツクラブなどがあるため、部活動指導員の配置の拡充をはかるだけでは、地域移行につながりにくいと考え。そのため、「地域のスポーツ・文化的活動の指導者」などの文言を付け加えなくてよいか。	下記のとおり修正。 ○ 部活動の地域移行の動きを踏まえつつ、部活動指導員の配置 拡充に努めるとともに、指導等を担う地域の人材確保に向けた仕組みの構築に取り組みます。
27	第2章 取組の柱と施策の展開 6子供の意欲を高め、教師の働きがいがある魅力的な教育環境づくりを進めます (26) 開かれた学校づくりと学校への支援	○ 「県立学校への支援」と「私立高校への支援」とのバランスという観点からの見直し ・県立高校の魅力を発信するための支援についての加筆（地域ごと、または課程・学科ごとに実施する中学生や保護者向けの魅力発信の機会を設けるための支援）、など	下記のとおり修正。 ○ 学校の特色ある教育活動等に関する情報を、地域に対して積極的に発信します。 特に、<u>県立学校については、中学生や保護者に対して、各学校の特色ある取組や魅力を発信する機会を設け、教育活動への理解を図ります。</u>
28	第2章 取組の柱と施策の展開 6子供の意欲を高め、教師の働きがいがある魅力的な教育環境づくりを進めます (27) 教員の人材確保と資質向上の推進	○ 教職員定数の改善、教員志願者の増加を狙う観点からの加筆 ・教職課程を設置する大学における教員免許が取得しやすい環境づくり（教職課程の十分な確保、受講しやすい時間割編成、等の工夫）	以下の記述を追記。 ○ <u>教員養成を行う大学と連携し、教職課程の十分な確保や時間割編成の工夫等、学生が教員免許状を取得しやすい環境づくりを図ります。</u>
29	第2章 取組の柱と施策の展開 6子供の意欲を高め、教師の働きがいがある魅力的な教育環境づくりを進めます (28) 学校施設・設備の充実	・近年、熱中症予防への対応は、教育問題の喫緊の課題の一つであると考え。学校の空調設備等の充実は急速にすすめられてはいるが、まだ完全に実施されているとはいえない。熱中症対策のための特別教室や体育館などへの空調設備の充実について明記してはどうか。 ・少人数指導が実現すれば、学級数増で教室が必要になるはずである。その点について、学校施設・設備の充実の項目に加筆する必要はないか。	以下の記述を追記。 ○ <u>市町村立学校における空調設備の整備や少人数学級の拡充に伴う教室不足への対応について、国へ働きかけます。</u>
30	第2章 取組の柱と施策の展開 7大規模災害や感染症拡大等の緊急時においても、子どもたちが安心・安全に学べることを保障します (29) 大規模災害や感染症拡大等の緊急時における学びの保障	○ 教職員定数の改善、教員志願者の増加を狙う観点からの加筆 ・「学校の新しい生活様式」を踏まえた教員定数の改善、少人数学級が実現できる教職員配置	下記のとおり修正。 ○ 新しい時代の学びを支える安心・安全な教育環境の実現や、地域の避難所としての防災機能を確保するため、「学校の新しい生活様式」を踏まえた教職員配置や 少人数学級を推進するとともに、安心・安全で健やかに学習や生活ができる学校施設の整備を図ります。